

実践まとめシート（１年次）

研究グループ	中学部（農工班）	実践グループメンバー	佐藤、對馬、鎌田、三浦
--------	----------	------------	-------------

実践タイトル					
『私たちのコットンボトル販売』					
I 問題と目的 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の中では作業学習の特徴として「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。とりわけ、作業学習の成果を直接、児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも、児童生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育てることができるようにしていくことが重要である。」と示されている。本校中学部の作業学習では、手工芸と農工の２つの作業を通して、働くことや社会参加の意欲や関心を高めるため、将来の社会生活の基礎となる力を培うことを重点として学習を展開している。そのため中学部３年間を通して２つの作業班を経験できるように生徒の所属班を編成している。１年生時は教師が生徒の実態を考慮して設定し、２年生時は、もう一方の作業班を経験することを目的として１年生時と異なる作業班にしている。３年生時は、２年間の経験も含め、生徒自身が選択できるようになっているが、それぞれの作業班の人数や実態等を考慮して希望していない作業班になることもある。作業学習に対する生徒の関心や意欲、基礎的な力については、学年差があり、毎年作業班のメンバーが変わるため、作業の内容や進め方などについては、生徒の実態に応じて変化させていく必要がある。 農工班では、畑作業を中心に野菜や綿の栽培、紡糸作業、染色などを主に行っている。野菜の栽培については、１０月の弘大祭の販売活動に向けて取り組んでいるが、販売数を確保することが優先され、栽培活動が教師主導で行われる傾向にあり、生徒の考えを活動内容に取り入れることが難しいことが課題であった。また、野菜の栽培は、生命の連続性や有限性について学ぶことができ、且つ収穫時には大きな達成感を得ることができる大変意義のある学習活動である。一方で収穫までに時間を要するため、作業の成果を即時的に実感することが難しく、達成感を得にくい活動が多かった。紡糸作業については、作業工程ごとの難易度に差があり、生徒の実態に応じて作業内容を設定することが可能であるものの、指先の力加減や繊細な作業技術など、集中力や指先の巧緻性が求められるため、難しい作業内容を担当できる生徒は限られていた。さらに、生徒の実態に応じた作業内容についても、大まかには設定しているものの、作業効率が優先されるが故に生徒に難易度の高い作業を求めていることも課題であった。そのため、生徒自身の作業に対する意欲や目的意識の高まりが少ないことが課題の一つとして挙げられた。そこで、生徒がより主体的に取り組める作業学習の在り方について検討する必要があると考えた。 以上のことから、本実践はより生徒の関心や意欲、目的意識を高め、「自分たちで考えたことが実践される作業活動」を目標に、生徒が学校と地域を学びの場として、学びを生かすサイクルを通し、エージェンシーの発揮に向けた学習活動の在り方を検討する。					
II 実践方法 1 対象児童生徒・学級・学習グループについて 中学部農工班（１～３年 生徒７名） 対象生徒４名 <table border="1"> <tr> <td>生徒 A</td><td>１年生女子。作業学習が初めてであり、体力に乏しく、細かい作業は苦手である。</td></tr> <tr> <td>生徒 B</td><td>２年生男子。集中が続かないことはあるが、畑作業は好きである。</td></tr> </table>		生徒 A	１年生女子。作業学習が初めてであり、体力に乏しく、細かい作業は苦手である。	生徒 B	２年生男子。集中が続かないことはあるが、畑作業は好きである。
生徒 A	１年生女子。作業学習が初めてであり、体力に乏しく、細かい作業は苦手である。				
生徒 B	２年生男子。集中が続かないことはあるが、畑作業は好きである。				

生徒 C	3年生女子。農工班リーダー、学習には前向きだが、身体を動かすことに対して苦手意識がある。
生徒 D	3年生女子。農工班を希望してきた。

（２）実践の手続き

<実践の概要>

- ・生徒の作業学習への意識や取り組み方の変化を見取るため、学習前と学習後に記述式のアンケートを実施し、作業学習の目的や「何を頑張りたいか」などについて調査した。農工班で毎年育てている綿は栽培が比較的簡単であり安定した収穫量が期待できる作物であるが、手工芸班への紡糸加工をした糸の提供のみに留まっていた。そこで、綿を何らかの商品にして販売できないかを考え、小物雑貨（コットンボトル）を製作し、弘大祭、小中学部の参加日の計３回販売学習を行った。販売学習後には商品（コットンボトル）や自分たちの接客態度について動画や写真を活用しながら振り返り、生徒たちの意見をもとに今後に向けての話し合いを行った。話し合いの中で「商品を改善したいけれど、どうすればよいかが分からない」という意見があったことから、雑貨などを取り扱っている専門店の方に話を聞くことにし、HOME WORKS 弘前店を視察した。HOME WORKS 弘前店には、生徒と教師で１回、教師のみで１回の計２回訪問し、商品の改善点や展示の仕方、梱包、接客などについてアドバイスをもらうことができ、商品開発のみならず地域との新しいつながりをつくることができた。

<指導上の工夫>

- ・販売学習の振り返りに、生徒同士の対話的活動を盛り込むことで、生徒のアイディアを生かした商品作りにつなげることができ、内発的動機付けを高めることが期待できるのではと考えた。
- ・地域資源（HOME WORKS 弘前店）から学ぶ機会を設定することで、様々な工夫や売るための努力をしていることを知るとともに、それらを意識しながら商品作りや接客に取り組むことができ、共同エージェンシーの発揮にもつながるのではないかと考えた。

（１）検証方法

- ・対象生徒 4 名に学習前と学習後に作業学習に関するアンケートとインタビュー調査を実施し、記述内容を比較・分析する。
- ・授業時の生徒の変容を記録し、複数の指導者でその変容を見取る。

【学習の流れ】

回	日時	時数	学習活動
1	9月26日	1	・作業学習に取り組む目的についてアンケートに記入
2	10月10日	1	・弘大祭に向けて綿を使った商品を考案・試作・話し合い（★生徒同士の対話的活動）
3	10月15日	3	・教師のアドバイスを受けながらコットンボトル作成
4	10月18日	4	・弘大祭で販売する（購入者アンケート実施）
5	10月21日	1	・弘大祭の振り返り ・商品をさらに売るための工夫について、生徒同士の話し合い（★生徒同士の対話的活動）

6	10月23日	4	・ 雑貨店 HOME WORKS 弘前店の見学、質問（●共同エージェンシーの発揮）
7	10月25・28日	2	・ 梱包や接客の練習、商品改善に向けた話し合い（★生徒同士の対話的活動）
8	10月29日	1	・ 中学部保護者への販売活動（購入者アンケート実施）
9	10月30日	1	・ 小学部保護者への販売活動（購入者アンケート実施）
10	11月27日	2	・ 販売活動の振り返り ・ 商品をさらに売るための工夫について、生徒同士の話し合い（★生徒同士の対話的活動） ・ 雑貨店 HOME WORKS 弘前店への質問を考える（●共同エージェンシーの発揮） ・ 質問動画撮影
11	2月27日	2	・ 雑貨店 HOME WORKS 弘前店からの回答を確認（●共同エージェンシーの発揮） ・ 商品をさらに売るための工夫について、生徒同士の話し合い（★生徒同士の対話的活動） ・ レストランにてごくろうさん会
12	3月 4日	1	・ 作業学習に取り組む目的についてアンケートに記入

Ⅲ 指導の実際

1	9月26日	1	・ 作業学習に取り組む目的についてアンケートに記入
---	-------	---	---------------------------

○生徒が農工班として作業学習に取り組む目的や、その取り組み方に関する意識調査を行うために事前アンケートを実施した。

Q1 あなたは、なんのために農工班で野菜や綿を栽培していますか。

生徒A	野菜を売るため。それは買いに来る人がいるから。
生徒B	みんなで協力する。畑で野菜を育てている。その野菜をディズニーランドのグリーティングに持って行く。お仕事をすればお金を稼ぐことができる。ディズニーランドに行くためのお金を稼ぐため。
生徒C	綿や野菜の育て方を理解するため。将来の進路に役立つと思うから学んでいる。
生徒D	弘大祭に商品を出すため。いっぱい買ってもらうとお金がたまる。

Q2 あなたが、そのためにがんばっていることを書きましょう。

生徒A	水やり。水をやる場所を間違えないように。
生徒B	慌てないでゆっくり丁寧に作業をする。みんなで一緒にいつも先生の話聞く。
生徒C	集中して取り組むことをがんばっています。
生徒D	いい野菜にするために水やりを一生懸命やること。

2	10月10日	1	・弘大祭に向けて綿を使った商品を考案・試作・話し合い（★生徒同士の対話的活動）
---	--------	---	---

○試作品の製作では、自分が欲しいものや作りたいものを自由に作った。その後、お互いの作品を見合い、「売れるかどうか」について意見を交換した。

実際に作られたものは、自分の好きなように綿にマスキングテープを巻き付けたり、綿の塊を透明な袋に入れてセロハンテープで留めたりするなど、シンプルなものが多かった。



生徒による試作品の一例

<生徒同士の対話より抜粋（商品について）>

○綿そのものについて

- ・綿はアイスクリームみだに見える。
- ・きれいな綿がよい。
- ・ふわふわの綿を売りたい。
- ・綿がきれいだから売れると思う。
- ・袋から出したときに気持ちいいから、ふわふわの綿を選んだ。

○綿を商品にするにあたって

- ・綿を糸にする。
- ・綿をひもにする。
- ・綿をティッシュにする。
- ・綿でボールを作る。

○綿をラッピングするにあたって

- ・つぶれないように袋に入れてテープで包んだ。
- ・ただ透明な袋に入れるだけではなく、リボンをかけてデコレーションした。また、コットンボールやシールなどで、飾りをつけてもよい。
- ・シンプルイズベスト。飾りなどをつけず、袋に入れるだけにした。
- ・綿そのものをそのまま持って帰るわけにはいけないので、袋に入っていた方がいいなと思った。
- ・綿をテープで固定して蝶々やいろいろな形にする。子どもたちが喜びそう。

3	10月15日	3	・教師のアドバイスを受けながらコットンボトル作成
---	--------	---	--------------------------

○教師のアドバイスを受けながら「コットンボトル」を作成した。透明なビンの活用方法やラッピングの工夫、綿の詰め方、検品のポイントなどについて教師がアドバイスをし、コットンボトルを仕上げた。



綿の詰め方



ラッピング



検品



完成品

4	10月18日	4	・弘大祭で販売する。(購入者アンケート実施)
---	--------	---	------------------------

○弘大祭での販売では、「いらっしゃいませ！」や「ぜひ買ってください！」と大きな声で呼び掛けながら、お客さんに積極的に声を掛けた。しかし、思うように売れず、多くの商品が売れ残る結果となった。



積極的に呼び込みをする生徒

<購入者アンケート記述 (一部抜粋)>

○価格、ラッピングについて

- ・価格については適正である。
- ・ラッピングについては非常に満足している。
- ・商品については、やや満足が多い。非常に満足は1名。

○用途について

- ・商品はインテリアとして活用する。

○買った理由

- ・きれいにラッピングされて興味をもって買った。
- ・珍しいものが置いてあったから。
- ・実際に販売している商品を見て、オシャレだと思った。

○商品へのご意見など

- ・商品自体はとてもいいと感じたが、ディスプレイをもう少し購入する側の目線にあるといいです。
- ・使い方がボードなどに書かれていれば、分かりやすいと思いました。
- ・一生懸命販売している姿が印象的でした。これからも頑張ってください。

5	10月21日	1	・弘大祭の振り返り ・商品をさらに売るための工夫について、生徒同士の話し合い(★生徒同士の対話的活動)
---	--------	---	--

○もっと売るための工夫について生徒同士で話し合ったが、これまでの野菜販売では完売することが多かったこともあり、なぜ売れ残ってしまったのか、はっきりとした理由が分からなかった。

<生徒同士の対話より抜粋(売れ残った理由について)>

○商品に課題がある

- ・ただの綿だから。
- ・値段が高すぎた。安くしたら売れるかもしれない。
- ・綿の中にゴミがあったから買ってくれなかった。
- ・においがなかったから買ってくれなかった。(においつきの見本はあった。商品には、においはない)

○宣伝の仕方に課題がある

- ・もっと大きな声で言えば買ってくれたのでは。
- ・商品の紹介(こんな商品があります)がもっとできればよかった。
- ・TikTokなどの動画を作ってSNSに投稿すればよかった。
- ・もっと宣伝すればよかった。
- ・お客様にどうすれば買ってくれるか、なぜ買ってくれなかったについて聞ければよかった。

○ラッピングなどに課題がある

- ・もっとシールなどを貼ればよかった。
- ・ラッピングに物足りなさを感じる。
- ・かごから出した方がよかった。いい商品を探さなくても見てわかる。

<生徒同士の対話より抜粋（購入者アンケート結果と記述を受けて）>

○商品について

- ・商品について、「やや満足」が多かった。非常に満足ではない。
- ・「インテリアにおススメですよ」と言ったから、インテリアとして活用してもらえる。

○商品の見せ方（ラッピング、ディスプレイ）について

- ・実際に商品を手に取って見るができるようにする。
- ・商品が見えにくい。
- ・ラッピングをよくする。
- ・ラッピングを外した方がよかった。（商品が見えやすくなる）

○商品の紹介について

- ・説明書みたいなものがあればよい。
- ・看板みたいなもの（こういう感じでやっています）があればよい。
- ・使用例を書いた方がいい。
- ・普通の店だと、使用例や説明書がある。
- ・どの商品にも使い方などを書いたものがあるから、あった方がよい。

<生徒が考えた「雑貨店 HOMEWORKS 弘前店」への質問（一部抜粋）>

- ・ラッピングはどうすればいいですか。
- ・ラッピングにリボンをつけていますが、このままでいいですか。
- ・ラッピングに飾りをつけた方がいいですか。
- ・リボンの結び方を教えてください。
- ・「ただの綿でしょ」と言った方がいましたが、その方へはどのようにアピールをすればよかったのでしょうか。
- ・商品の種類は、どのように紹介すればいいですか。
- ・どんな名前（商品名）にしたらいいですか。

6	10月23日	4	・雑貨店 HOME WORKS 弘前店見学、質問（●共同エージェンシーの発揮）
---	--------	---	---

○売れ残った理由を探るため、専門家からアドバイスをもらうこととし、雑貨店 HOME WORKS 弘前店を訪問した。店内を見学し、商品のデザインやラッピング、陳列の工夫、接客方法などについてアドバイスを受けた。生徒の多くは同店を訪れるのが初めてで、店長の親切な対応もあり、たくさんの学びのある貴重な経験となった。

○アドバイスの概要として、以下の点について教えてもらった。

- ・商品：「種類があると選ぶ楽しさが増す」とのこと、バリエーションを増やすとよい。
- ・展示方法：商品の説明をしっかりと伝える工夫や、見やすく並べる方法について検討するとよい。
- ・梱包：シールや折り紙を入れると特別感が出ること、リボンの種類や結び方の練習が大切である。
- ・接客：「見ていきませんか？」「お手にとってみてください」など、お客さんに気軽に声を掛けるとよい。

これらのアドバイスを基に、販売方法をさらに工夫していくこととした。



HOME WORKS 弘前店で、生徒が店長さんに質問する様子

7	10月25、28日	2	梱包や接客の練習、商品改善に向けた話し合い（★生徒同士の対話的活動）
---	-----------	---	------------------------------------

○アドバイスを基に、次の販売会に向けて準備を進めた。特に、リボンの結び方の練習や、より魅力的な梱包方法について話し合い、工夫を重ねた。どのようなラッピングが喜ばれるかを考えながら、実際に試してみるなど、より良い販売につなげるための準備を行った。



商品説明やポップの作成



ラッピングの検討



リボン結びの練習

<生徒同士の対話より抜粋（ラッピング等の検討）>

○商品について

- ・綿は、茶色いのが見えないように入れる。
- ・折り紙を下にしてから綿を入れる。

○ラッピングについて

- ・ハロウィンが近いので、ハロウィンに関するシールがよい。
- ・リボンは上から結ぶ。

○ディスプレイについて

- ・このハンカチだったら、カラスボトルに合うと思う。

○ポップについて

- ・見えやすいように大きな紙に書く。
- ・ハロウィンのイラストも貼った方がいい。

8	10月29日	1	・ 中学部保護者への販売活動（購入者アンケート実施）
9	10月30日	1	・ 小学部保護者への販売活動（購入者アンケート実施）

○アドバイスを基に、参観日に保護者への販売活動を2回実施した。また、お客さんへの声掛けも工夫し、「いらっしやいませ！」だけではなく、「見てみませんか?」「お手にとってみてください」など、より控えめで親しみやすい言葉に変えて呼び掛けるようになった。



アドバイスを生かした展示



お客さんとのやりとり様子

10	11月27日	2	・販売活動の振り返り ・商品をさらに売するための工夫について、生徒同士の話し合い（★生徒同士の対話的活動） ・雑貨店 HOME WORKS 弘前店への質問を考える（●共同エージェンシーの発揮） ・質問動画撮影
----	--------	---	---

○保護者への販売活動では、売れ残りがあった。購入者アンケートには、「香りがついていた方がいい」という意見があった。これは香り付きのサンプルを置いたからである。しかし、HOME WORKS 弘前店の店長は「香りは付けない方がいい」と話していた。生徒たちは、この相反する意見にどう対応するべきか悩み、話し合った。その結果、意見が分かれたので疑問点について再度 HOME WORKS 弘前店に質問をすることとした。

11	2月27日	2	・雑貨店 HOME WORKS 弘前店からの回答を確認（●共同エージェンシーの発揮） ・商品をさらに売するための工夫について、生徒同士の話し合い（★生徒同士の対話的活動） ・レストランにてごくろうさん会
----	-------	---	---

○香りを付けるべきかどうかについて、HOME WORKS 弘前店からの回答を確認した後、それを基に再度話し合った。この時、生徒たちは自分たちの意見をしっかりと伝え合うことができたが、意見が分かれた。ある生徒が「香り付きと香りなしの両方を売ってみてはどうか」と折衷案を提案した。

12	3月4日	1	・作業学習に取り組む目的についてアンケートに記入
----	------	---	--------------------------

○単元開始時と終了時の生徒の意識の変容を見取るために、単元開始時に実施した、生徒が農工班として作業学習に取り組む目的や、その取り組み方に関するアンケートを再度実施した。

Q1 あなたは、なんのために農工班で野菜や綿を栽培していますか。

生徒A	糸を作るため。弘大祭で売するため。いろんな人が買ってくれる。
生徒B	野菜を協力してテキパキやる。やらないとお給料がもらえなくなってしまう。さぼったらお金をもらえなくて旅行に行けなくなっちゃう。
生徒C	働くためにいろいろな経験をするため。時間割にあるから、というのもある。
生徒D	野菜とコットンボトルを販売するとお金がもらえ、ごくろうさん会のご飯のお金をためるため。

Q2 あなたが、そのためにがんばっていることを書きましょう。

生徒A	綿のごみとり。綿がきれいになると糸をいっぱい作れるから。 野菜の収穫。収穫しないと売り物がない。野菜を傷つけないように。
生徒B	テキパキ、丁寧に、ぼけっとしないで遊ばずに作業をする。
生徒C	集中して最後まで取り組むことを意識しています。
生徒D	コットンボトルの中にゴミがあるとお客さんが買ってくれないと思うから、綿のゴミを丁寧に取る。綿をお客さんに見てほしいから、ピンに綿の葉を向けないように入れる。

Ⅳ 結果

○単元内容について

野菜作りや紡糸作業に対して生徒の中には学習活動に消極的な様子が見られたが、コットンボトル作りの単元においては、ガラスボトルへの綿詰め作業や梱包作業に積極的に取り組む姿が多く見られた。この変化は、生徒が新しい活動に対する興味をもち、自ら行動する意欲を高めたことを示している。

○共同エージェンシーの発揮について

これまで生徒同士の対話的活動の機会の設定が少なかったこともあり、あまり意見を交わすことのなかった生徒たちが、生徒同士の対話的活動を設定したことで、商品の改善案やHOME WORKS 弘前店への質問項目を考える際に自発的に発言していた。特に、販売会での接客においては、HOME WORKS 弘前店からのアドバイスを参考に、『『いらっしゃいませ』と言われると買わないといけないと感ずることもあるので、『買わなくてもいいので見てみませんか』『お手に取ってみてください』などの声掛けがよい』といった新たなアプローチを試みた。さらに、ラッピングやポップに関するアドバイスを基にした準備を行うことで、生徒は自分の考えや友達の意見を商品の改善に反映せようと積極的に取り組んでいた。

○生徒同士の対話的活動について

生徒同士の対話的活動として、綿を使った商品を考案するための話合いや、弘大祭の振り返りに基づく商品の販売の仕方についての話合いを計5回実施した。これにより、生徒が自分の意見を発言する回数が増えた。話合いにおいては、教師がファシリテーションを行い、参考となるデータや具体物を提示したことで、生徒同士の対話を活性化することができた。

○単元前後のアンケート結果比較について

単元の前後で実施した生徒へのアンケートでは、各質問に対して追加質問を行い、記述の意図も記録した。回答内容については、「他者との協働」（観点項目1）と「学習目的」（観点項目2）に関する二つの内容について、その記述の出現を分析した。「他者との協働」に関しては、「協力」、「一緒に」、「みんなで」といった言葉を、「学習目的」に関しては「売る」、「買いに来る人」、「お金」、「お給料」、「売り物」、「お客さん」、「買って」といった言葉が抽出された。

観点項目1（「他者との協働」に関する内容）								
生徒	生徒A		生徒B		生徒C		生徒D	
質問	質問1	質問2	質問1	質問2	質問1	質問2	質問1	質問2
9月	—	—	+	+	—	—	—	—
3月	—	—	+	—	—	—	—	—

観点項目2（「学習目的」に関する内容）								
生徒	生徒A		生徒B		生徒C		生徒D	
質問	質問1	質問2	質問1	質問2	質問1	質問2	質問1	質問2
9月	+	—	+	—	—	—	+	—
3月	+	+	+	—	—	—	+	+

（＋…出現あり —…出現なし）

表 アンケート結果 観点項目の出現状況

質問1「あなたはなんのために農工班で野菜や綿を栽培していますか」については、単元前後での観点項目の出現変化は見られなかった。一方、質問2「あなたが、そのために頑張っていることを書きましょう」については、生徒Aと生徒Dの回答で観点項目2「学習目的」に関する内容が出現した。この結果、農工班の作業全体に対する意識の変容は見られなかったものの、作業学習の中での自分の努力をより具体的に捉えることができたことが示唆される。

本単元を終え、作業学習の最後に行ったアンケートでは、自由記述「感想」の部分の記述内容として「一人で黙々と作業をするよりも人とコミュニケーションがとれる方が勉強になる」、「みんなで話し合ってみんなで協力して作ったり販売したりしたことがよい経験になった。高等部でもいかしたい」、「みんなでアイディアを出して協力して売った、ということがすごく思い出に残っている」といった内容が記述されていた。ここには「他者との協働」（観点項目1）に関する内容が複数記述されていて、最終的には仲間と協力しながら取り組むことの意義を感じながら作業学習に取り組んでいたことがうかがえた。

V 考察と課題

本実践を通して、生徒のエージェンシーを発揮させるためには、学習単元の構成において以下の三つの要素が重要であることが明らかになった。

1 学習目的の明確化

本実践では「弘大祭での出店や保護者への販売会のための商品開発・製作・販売」という具体的な目標を設定し、授業を進めた。

その結果、生徒が作業学習に積極的に参加する姿勢が見られ、自ら意見を発信する場面が増加した。これにより、学習の目的が明確化されることで内発的動機付けが向上し、生徒の主体的な学習を促すことが可能であることが示唆された。

2 生徒が自己選択・自己決定できる機会の設定

本実践では、既習の学習（綿のごみ取りやピンセットを用いた作業）を生かすことで、学習の継続性をもたせた。また、その過程において生徒自身が活動内容を自己決定・自己選択できる場面を設けた。そして、地域の雑貨店の方から専門的な助言を受けながら商品作りを進めることで、共同エージェンシーを発揮させる学習環境を構築した。その結果、生徒が自ら進んで商品を完成させたり、仲間と作業の進捗を報告したり、話し合いにおいて自分の意見を発表したりする姿が多く見られるようになった。

3 達成感を実感できる学習環境の構築

本実践では、単元を短期間で完結するように再構成し、販売会を最終成果発表の場として位置付けた。一つの商品が短時間で完成するような工程を設計し、生徒が作業の成果を迅速に実感できるようにした。短いサイクルで成果を得られる活動が、生徒の学習意欲や達成感の向上につながることを示唆された。また、販売活動を通じて「売れた」、「売れなかった」という具体的な結果が得られることで、生徒が自己の活動の成果を実感する機会が増えた。また、販売会後の振り返りでは、「たくさん売れて嬉しい」、「なぜ売れ残ったのか」、「もっと売るためにはどうすればよいか」といった生徒の主体的な発言が見られた。これにより、達成感を得る経験が学習意欲の向上につながる可能性が示唆された。

<今後の課題>

本実践を通じて、生徒のエージェンシーの発揮に向けた学習活動の在り方が明らかになった。一方で、以下の三つの課題が浮かび上がった。

1 生徒の意向をどのように学習内容に反映させるか

・生徒の思いやアイディアを学習計画にどのように組み込むかについて、より具体的な手法を検討す

る必要がある。

2 生徒同士の対話的活動をどのように活性化させるか

- ・生徒のエージェンシーの発揮をさらに促進するために、生徒間の協働的な対話をどのように支援するかを検討する必要がある。

3 学習スパンの長い畑作業の計画と指導方法

- ・従来の野菜作りは、作業の開始から収穫までの期間が長いため、作業の成果を即時的に実感することが難しかった。また、紡糸作業で作成した糸の活用が他の作業班で行われるため、自分の作業が最終的な商品にどのように結びつくのかを実感しにくかった。このことは、事前・事後アンケートの中で、農工班で栽培した綿や野菜が最終的に何に使われるかについて言及されている回答がなかった点からも示唆された。野菜の栽培のように長期間を要する作業において、生徒が目的意識や興味関心を維持できるような学習活動を構築する必要がある。

次年度の研究では、これらの課題を踏まえ、「生徒同士の対話的活動」と「共同エージェンシーの発揮」をさらに発展させる形で単元を構成し、生徒が主体的に学びに向かう場面を増やしていくことを目指す。また、作業学習の意義を踏まえながら、本校中学部の生徒にとってのエージェンシーの在り方について、より深く考察を進めていく予定である。

VI 参考・引用文献

- ・文部科学省（平成 30）．特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），33-34.
- ・菊地一文（2024）．共生社会を形成する一人一人のウェルビーイングの向上を目指すうえで求められること 特別支援教育研究, 東洋館出版, 4 月号, 26-29.